

第4回BOX展 – 30cm×30cm×30cmで遊ぶ–

開催報告

展覧会委員会

まずは、コロナ禍の緊急事態宣言の中、各方面の皆様のご協力の下、第4回BOX展が無事に開催できましたことを感謝申し上げますと共に、報告させていただきます。

1.事業企画名：第4回BOX展–30cm×30cm×30cmで遊ぶ

2.企画内容：30cm×30cm×30cmの立方空間を自由に使用した作品による展覧会（平面、立体は問わず）

3.目的・対象：国籍、年齢、プロ・アマ、aaca会員・一般参加を問わず募集し、建築・美術・工芸など様々なジャンルと自由な素材を使用した、多様な表現の場となり、交流の場となる新しい形の展覧会を目指し、優秀な作品と人気作品には賞状と協賛各社の副賞を授与。作品制作を応援しaacaの活動の一環として社会的な意義を広め高める事を目的としています。

4.期間：令和3（2021）年6月5日（土）～6月11日（金）

表彰式：搬出：6月11日（金）13時～

5.搬入：令和3（2021）年6月4日（金）10時～

搬出：令和3年6月11日（金）15時～

6.会場：建築会館1Fギャラリー

各賞と受賞者：aacaBOX展賞

◎最優秀賞1作品：No22知多 秀夫『愛の館』

◎優秀賞2作品：No8鈴木 法明『無限の融合と変異』／
No44神 まさこ『転生』

◎佳作4作品：No2横沢 和則『サステナブル・ブルー』／
No20（株）野口硝子『湘南ブルー』
No25上村 伴子『キュービック・ミラクル』／
No41中嶋 久美『アフター・ザ・レイン』

◎特別賞1作品：No17・18笹岡 かおり『ひつじの冒険–地図にない島–』『テレスポロス–行く手を照らすこびと–』

◎オーディエンス賞1作品：No3金原 京子『不思議の森』

7.選出方法：審査員の点数と来場者得票の合計得点・オーディエンス賞：来場者投票による集計の最高得票作品

8.審査員：審査委員長：aaca副会長 岩井光男

総務委員会委員長 二本柳 敏、景観シンポジウム委員会委員長 本 耕一、会員交流委員会委員長 青木 崇、文化事業委員会 木村 慶太、表彰委員会委員長 可児 才介、情報文化委員会委員長 坂上 直哉、フォーラム委員会委員長 立石 博巳、広報委員会委員長 飯田 郷介、会員増強委員会委員長 柴山 哲也、展覧会委員会 平山 健雄

9.協賛：株式会社クサカベ（12色絵具セット3点）

株式会社文房堂（スケッチブック3冊）

株式会社名村大成堂（絵筆3本セット3点）

株式会社アクエリアス（キャンパス3点）

光スタンド工房（仏製スタンドガラス見本1セット）

10.実行委員：第4回BOX展実行委員長 野口真理、展覧会委員

11.応募総数：44名（2名キャンセル） 会員25名 一般19名（学生1名含）

12.作品出展総数：41名、43点（内招待2点 東條隆郎 平山 健雄）

13.来場者数：会期7日中151名（1名ずつの来場者カードの集計より）

（敬称略）

■総括：新規の試みとして、広報委員会の皆様のご協力も得て、動画と作品毎のスチル撮影及びYouTubeアップと告知が実現いたしました。コロナ禍中の開催でもあり、無観客での開催を想定し事業のアーカイブ化と今後の広報活動と告知に繋がり、インターネット環境があれば地球上での観覧が可能となり、本展とaacaの国際的認知にも繋がるとの考えから画像のクオリティも重要と考え、美術展撮影のプロに依頼いたしました。他に新規取り組みとしても、展示作品のキャプションに各作家のステートメントを掲載して作品と共に掲示。会場ではYouTubeの告知チラシの他、展示配置図付の出品目録を作成して配布いたしました。出品者の年齢層は10代から80代で素材と表現の幅も広がり、作品のテーマと素材も現代を反映した「サステナブル」「エコロジー」などのテーマで制作されたものが各賞の上位を占めたことは、重要な意義があると感じております。ギャラリー受付の場所を変更したことにより、会場の利点も最大限に活かすことができ、出品者の方を含めた来場者の方々の感想とご意見もこれまで以上にご好評頂きました。

展覧会委員会委員長 平山健雄

副委員長 松田静心



東條隆郎 aaca 会長



佳作受賞 (株)野口硝子



佳作受賞 横沢和則氏



審査総評

審査委員長 岩井光男

6月5日から1週間、第4回BOX展は建築会館のパティオに面した1階ギャラリーで開催されました。

一辺30cmの立方体の限定された空間に表現された43点の出品作品は作家の個性的な創造力と表現力によって展示空間は自然光に輝く美しいアート空間となりました。作品の審査はaaca展覧会委員会委員の発案によるたいへんユニークな審査方法で、期間中BOX展に参加されたaaca各委員会委員長とギャラリーの投票によって各賞が決定されました。今回最多の投票数を獲得して最優秀賞に選出されたのは知多秀夫氏の作品「愛の館」でした。段ボールの持つ多孔質な断面を巧みに使って、一辺30cmの立方体を構築し、その内部空間の上面と下面を繋ぐ白濁した半透明の氷柱状の物質を林立させたシンプルな空間構成なのですが、パティオからの光の反射、屈折によって暖かい愛を感じる神秘的な世界を創り出している作品でした。私は「愛の館」を見て鍾乳洞の空間と共通するもの感じました。鍾乳洞は石灰石が地表水、地下水によって溶食され洞窟内に滲出して沈積した鍾乳石が天井から氷柱状に垂れるものと地上から積みあがる石筍とが繋がり、石柱に成長して行く自然が造り出す空間ですが、氷柱と石筍が結び合って石柱になるには人類の歴史を遥かに超えた異次元の時間を必要とします。この作品を拝見して鍾乳洞と共通する時を超越し、ゆったりとした時間の空間に漂う暖かさを感じました。また優秀賞に選ばれた鈴木法明氏の作品「無限の融合と変異」は30cmの立方体の空間が時空を超えてメービウスの帯と共に無限の融合と変異を繰り返す宇宙空間を鈴木氏のポキャラリーで表現した明解な作品でした。もう一つの優秀賞に選ばれた神まさこ氏の作品「転生」は洗練された俳句のような作品でした。俳句は五・七・五の十七音を定型とする短い詩です。この限られた文字数によって人間の持つ多様な心の世界を無駄なく表現する俳句と共通するものを感じました。今回、出品された作品全体を見て感じたことはアート作家の持つ個性が際立つ作品ほど見る人を楽しませてくれるということでした。そこには作品を通して作家との会話が生まれます。布、紙、木、ガラス、金属、プラスチック、皮革など様々な素材を巧みに使ってBOXと言う限られた空間で表現されるアートは人間の持つ多様な視覚的世界を創り出しているように感じました。日本建築美術工芸協会はその名の通り多種多様なアーティストが集まり交流することを目的にしている協会です。BOX展に出展された作家の作品を通して会員相互の交流が広がって行くことを願っています。折しも新型コロナ禍によって行動の自由を制限さ

れ、たいへん鬱屈な日常を送っている昨今、どんな外部的制約があろうとも人間の持つ創造力、表現力は自由であるということを今回のBOX展から感じました。参加して頂いた作家の方々、作品を見て、投票していただいたギャラリーの皆様ありがとうございました。次回も期待しています。



岩井光男審査委員長



オーディエンス賞受賞 金原京子氏

●最優秀賞



知多秀夫 愛の館
ダンボール、ボンド
愛は不安定であるが、愛の証で館を作り生活をしている建物は透明、不透明な空間で、時には、愛の相克に軋みながら構築して行く関係は愛の表現を芝居小屋の舞台上で情に変えて幻を感じる生活に浸かる場所になるのでしょうか？

●優秀賞



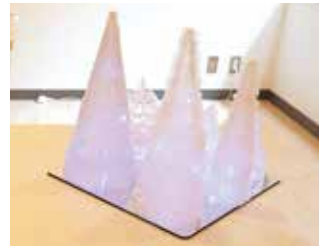
鈴木法明
無限の融合と変異
チタンとステンレス
温暖化で凍土から眠っていた未知のウィルスが地上に現れて来るようです。コロナウィルスもその類かも知れません。この作品は全ての概念及び物質等の融合と変異を、無限を意味するメビウスの輪で表現したものです。

神 まさこ 転生
炭、金属
生命ある物は、あらゆる物体に変化をし、それはまた生命ある物として存在していくのではないかと？松の丸太が炭と変化した様に魅せられ制作しました。



●オーディエンス賞

金原京子 不思議の森
ペットボトル
日常生活の中で今や欠かせないペットボトル 使用後はゴミになります。もったいない。透明な容器も見方を変えれば個々な物に変化 その可能性を身の周りや自然から感じとって創作して行きたいと思っています。



●特別賞

笹岡かおり
ひつじの冒険—地図にない島—
羊毛、毛糸、ワイヤー
私のウールワークのマスコットキャラクター「上を向いて一步踏み出す羊」が世の中を旅して廻るシーンのひとコマ。こんな街が世界にはわりとフツーに存在するとか。



笹岡かおり テレスポロス—行く手を照らすこびと—
羊毛、ガラスケース
心理学者ユングが晩年自ら彫ったという石碑の中の童神、テレスポロス。ギリシャの医神アスクレピオスの補佐役だったという。頭巾を被ってカンテラを下げたその姿に親しみを覚え、再現してみた。

●佳作



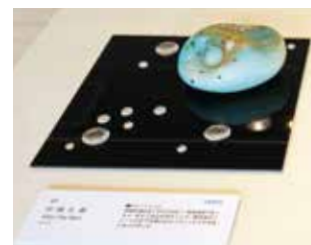
横沢和則
SUSTAINABLE BLUE
硬質発泡アクリル材
ゴミ処理が世界的に深刻な環境破壊問題となっている現代。自陣の創作活動で輩出してしまった廃棄物に、もう一度“生命”を与えられたら・・・持続可能な創造社会を願う気持ちを、強いブルーで表現してみました。



(株)野口硝子
湘南ブルー
ガラス
物を作っているとどうしても端材がでてしまいます。硝子端材はまるで海のようにとても美しく、なんとか再利用ができないかと工房では日々奮闘しています。端材から新しいガラスになるまでの過程をオブジェにしました。



上村伴子
Cubic Miracle
シナベニヤ、アルミ板、ステンレス板、アクリル絵具
30センチの立方体がそれ以上の空間的大きさを感じるように、そして6面すべての方向から鑑賞できる(置き方を変える)空間表現を目指して、私のデザインパターンの一つである「ミラクル」の材料、色調で表現した。



中嶋久美
After the Rain
ガラス
空間を埋め尽くすのではなく、無色透明であったり、あえて余白を残すことで、鑑賞者のイメージの中で空間が広がっていくような作品に仕上げました。

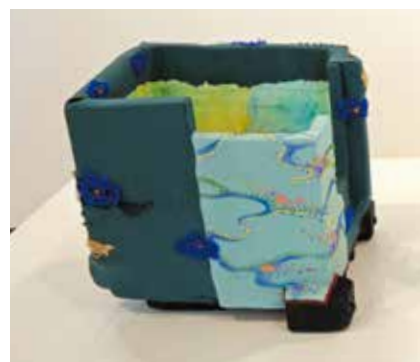
出品作品



吉野ヨシ子 豊かな地球へ!
ブロンズ



中野敦子 アンバランス
絹の布と色



品川未知子 花の小道の小物入れ
絹地、絹糸、絹糸臍、和紙、発泡スチロール、他



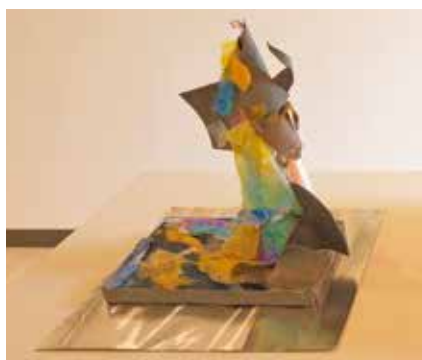
松本治子 Organic playset—有機的遊具—
木の枝、大理石、タイル、セメント、砂



鈴木千賀子 花水木
クスノキ、彩色、箔、レンガ



沼田直英 射影空間—無限遠
木材、P,P



渡辺雅子 時の残滓 2021-4
ミクストメディア



山崎和子 Urban Cube
紙布(フェルト)



若月弓枝 Unison
石、ガラス



李染はむ 富士山
木材、アクリル、粘土



久野博美 おもいは出る
古布、廃材、絹糸



SAYO NEON Garden Box
写真、アクリル、ライト



高須好子 ヒカリ
布地・糸・絹、ラメ、本金糸



深尾雅子 増殖“J”
真鍮ワイヤー、コム、他



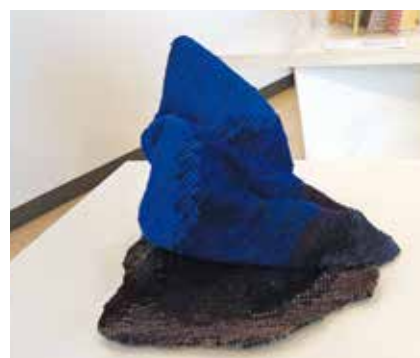
澤田石貴子 とりのめ (The bird's eye view)
アクリルガッシュ、墨



太田紀里 空想
紙ストロー、紙バンド



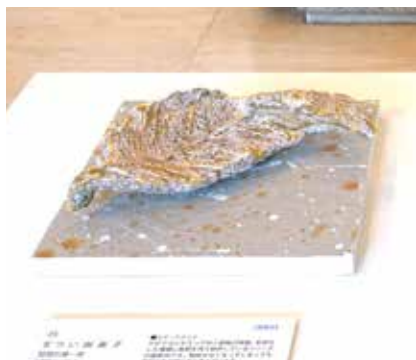
野口真理 つちのたね
陶土、粉漆、金属箔



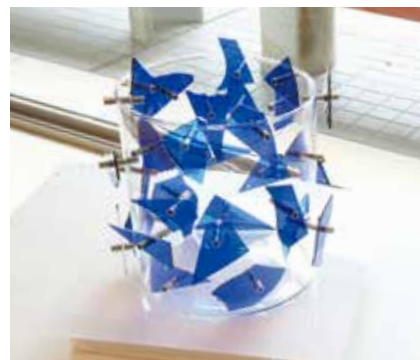
若松美佐子 波
絹布、麻糸



佐藤静子 !? (So what! Now What?)
ケミカルレース、エンプロイダリーレース



まつい由美子 枇杷の葉一枚
石塑粘土、アルミ



平山健雄 持続不可能な空間
ガラス、マグネット



五十嵐通代 包む
絹、黄銅線、綿、アクリル、ガラス



山崎輝子 転生の貌
皮革、鉛板、ワイヤー、マグネット



松田静心 PePPerMint, bLue
アクリル板、水、紙、火山灰、他



出居麻美 群がる
食品パッケージ、レーヨン糸



山崎哲夫 立体造形用ブロックのみを使用した「八坂神社西楼門モデル」
細長形白木材ブロック（使用ピース 344 個）



舎 真治 Tree - Cristal
木



上江洲牧子 あなたのハートはどれですか 私は…
ガラス、木、箔、鏡



島崎英子 My dog cushion (想像力は無限大模様)
クッションカバー (綿 100%) シルクコットン、バンヤ (羽毛)



神 芳子 Dragon 2021
藤、ワイヤー



吉田 実 庭の石
磁器



舎 真治 Flap ! Flap ! Your Wing-tree mouvement
series-
木 (柳 & 桂)



東條隆郎 「OXALIS」冬至の頃
写真

第 4 回 BOX 展の展示風景はこちらでご覧いただけます

http://art-museum.main.jp/jam_live2021/aaca01/panorama/

1. 展示会総合画面 (ジャパンアートミュージアムの HP)

http://art-museum.main.jp/jam_live2021/aaca01

2. パノラマ画像 (ジャパンアートミュージアムの HP)

http://art-museum.main.jp/jam_live2021/aaca01/panorama/

3. YouTube

<https://youtu.be/uNtbsrgz4L0> どうぞよろしくお願ひします。



最優秀賞を受賞して

現代アーティスト 知多 秀夫

愛の館、私の目指した立体空間は、私が絵の具を買う画材店の2階にある、ハニカムボードで立体の骨格になると私は確信した。AACA.BOX展、30cmキュービック規格のコンクールでした。私は昔、約6坪の丸太小屋を1年掛けて自力で建てた。この小屋は直径10cmの不揃いで、4mの皮付きのカラマツでした。100本購入して皮削ぎ、深さ1mの穴を柄杓で土をすくって丸太を立てる。その私の姿を見て友達に笑われた。その穴に丸太を半分に割り全体に張るには大変なので、道路側だけに丸太を張ったが、裏や屋根はトタンを張った。それでも張り残しの場所をお歳暮用の塩サケの箱の板を利用した。それは私の家が魚店だったので、毎朝、父を車に乗せて魚市場に買い出しに行っていた。その頃世間は故郷の父母や親戚に塩サケを贈る慣習があった。

塩サケは北海道から木箱入りで送って来る。その木箱は横に漁場の問屋の名前入りで寸法が揃っていて、加工しなくても使用出来る。私は揃った板だけ集めて、後の不払い

の板はドラム缶で焚火をして、父の仕入れを待ち、集まった魚と板を乗せて、店に戻り魚を下ろし、板は小屋の現場に持ち帰り、張り残しの場所に張った。私がこの小屋を創るきっかけは、父が戦争中に住んでいた家が、道路の向かいにあった東京都の木材置き場が米軍の焼夷弾で火事になり、それを父が消火をしていたら父の自宅が燃えてしまった。しかし東京都の木材は無事だったので、父は木材を貰い家を建てた。その事を知ったのは、道路の拡張のため父の建てた家を壊す事になった為だ。壊す事を手伝って塩サケの板を使っている事も知った。その事が支えでもあって無事に完成した。出来上がった小屋を山小屋と名前付けてスナック開いた。小屋は欠陥だらけ、風とうしが良い、雨漏りはなかったけれど、俄かの私がマスター、スナックの事も良く知らず始めて3年間続けた。大変だったが山小屋は男と女の交差点の館になったが、残念な事に文化が生まれなかったのが愛される。(2021.7.15)



最優秀賞受賞 知多秀夫氏



「2022年度 第5回BOX展」(予定)

2022年6月4日(土)～10日(金) 11:00～18:00

会場 建築会館1Fギャラリー

搬入6月3日(金)、搬出6月10日(金)

募集内容 30cm×30cm×30cmの空間に入る作品による
展示(立体・平面・表現方法は不問)